

# 岐阜県所縁の個人・団体が JICA 理事長賞を受賞

## —岐阜県ルーツを持つ日系ブラジル人の医療分野での貢献—

## —岐阜県所在団体による JICA ボランティア事業理解促進—

国際協力機構(JICA)では、毎年、国際協力事業を通じて開発途上国の人材育成や社会発展に多大な貢献をされた個人・団体に対し、その功績を讃え、表彰しています。

第17回を迎える今年度は、岐阜県ルーツを持つ森口エミリオ秀幸氏と岐阜県青年海外協力隊を支援する会が、JICA 理事長賞を受賞することが決定いたしました。

オンライン取材等も調整可能ですので、ぜひご取材を検討下さい。

受賞者・団体名	受賞理由
森口エミリオ秀幸氏  リオ・グランデ・ド・スール連邦大学 医学部教授	森口氏は、「ブラジルのシュバイツァー」と呼ばれた、岐阜県出身の祖父(細江静男氏)、父に続き3世代に渡るライフワークとして、ブラジルの日系移住地での巡回診療を献身的に継続。 ブラジルでの日系移住地における巡回診療では、巡回に要した移動距離は毎年3,000kmを超え、言語の壁で一般病院での診察を受けられない日系人に対して医療サービスを提供しました。昨今のコロナ禍においては、100人以上の患者へ遠隔診療を行い、医療サービスへのアクセス確保に努められています。(詳細は添付参照)
岐阜県青年海外協力隊を支援する会	同団体は、1990年代以降、岐阜県国際交流センターに先駆ける形で、いち早く県民へのJICAボランティア事業の広報等の活動を開始し、約30年に亘り、県内のJICAボランティア事業の理解促進に貢献。その結果、市民団体やNPO等による国際協力のイベントが積極的に開催されるようになり、広範な市民参加が実現しました。草の根レベルで長期に亘り募集広報等の活動を継続し、岐阜県のJICA海外協力隊派遣数の増加にも貢献されました。

\* オンライン形式での表彰式を、12月9日(金)に開催します

・ご取材の参考として視聴をご希望の方には、後日録画映像の共有が可能です(ただし映像/写真を報道にご活用いただくことは難しい旨、予めご了承ください。)

\* JICA 理事長賞の全対象者については、以下の [JICA ウェブサイト](https://www.jica.go.jp/press/2021/20211206_21.html)上に公開しています。

([https://www.jica.go.jp/press/2021/20211206\\_21.html](https://www.jica.go.jp/press/2021/20211206_21.html))

### 【本件に関する問い合わせ先】

JICA 中部 市民参加協力課 吉田

TEL 052-533-0120

e-mail : Yoshida.Erina@jica.go.jp

**Press Release**

◆ Contato  
Agência de Cooperação Internacional do Japão (JICA)  
TEL: (61) 3321-6465 FAX: (61) 3321-7565

2021年12月7日

報道関係各位

国際協力機構(JICA)  
ブラジル事務所

**森口エミリオ秀幸教授**  
**長年の巡回医療を通じた JICA・日系社会全体への貢献に JICA 理事長表彰決定！！**

このほど第 17 回 JICA 理事長賞の受賞者が決定し、ブラジルからはリオ・グランデ・ド・スール連邦大学医学部教授の森口エミリオ秀幸教授が選ばれました。

この機会にぜひとも取材をご検討下さい！

## 1. 受賞の背景

### ① 森口氏のご活躍

森口氏は、約 15 年に亘り、ブラジルにおける JICA の研修事業や助成金事業で主要な役割を果たし、日系社会を初めとするブラジル及び他国の医療サービス向上に貢献されました。

特に、JICA の第三国研修「老人病学」(1994-1998 年実施)では、森口氏は父親の森口幸雄氏と共に主要な講師となり、同研修の成果に大きく貢献されました。

親子でラテンアメリカ各国から参加する研修員に対し、域内で最先端の老人病学(成人病の治療や危険因子・予防因子の研究を通じた治癒率向上・発生率低下のための知識・技術)を移転し、360 時間のコースを通じ 74 名の研修員を受け入れることができました。

当時、ラテンアメリカにおける老人病学の研究者が少なかったことから、帰国した研修員は国を超えた情報交換や自国における第一人者としての普及活動など、自国に戻ってからそれぞれの国で大きな役割を果たしました。

### ② 3 世代に渡る偉業

森口氏は「ブラジルのシュバイツァー」と呼ばれた祖父(細江静男氏<sup>1</sup>)、父(森口幸雄氏<sup>2</sup>)に続き 3 世代に渡るライフワークとして日系移住地での巡回診療を献身的に継続されています。

日系移住地における巡回診療では、巡回に要した移動距離は毎年 3,000 km を超え、言語の壁で一般病院での診察を受けられない日系人に対して医療サービスを提供しました。昨今のコロナ禍においては、100 人以上の患者へ遠隔診療を行い、医療サービスへのアクセス確保に努められています。

また、父親と共にこれまで日本やアメリカからの医学生も巡回医療活動に参加し、へき地へ医療サービスを届ける技術と意義を実体験を通じ伝える活動を長きに渡り行ってきました。こうし

<sup>1</sup> 岐阜県出身。在ブラジル日本人同人会日本病院(サンタクルス日慈善協会、現サンタクルス日本病院)の設立に携わりました。1962 年日本医師会から最高功労賞を授与。同年、勲三等瑞宝章を授与。

<sup>2</sup> 国際協力事業団総裁賞、外務大臣賞、読売新聞医療功労賞、そしてブラジルにおいては南大河名誉州民、カトリック大学功労賞、ブラジル老年医学会功労賞を受賞。

**Press Release**

◆ Contato  
Agência de Cooperação Internacional do Japão (JICA)  
TEL: (61) 3321-6465 FAX: (61) 3321-7565

た活動はボランティア(費用は森口親子が自ら負担)で実施されています。

### ③ JICA 理事長賞授賞の意義

新型コロナウイルスにより世界 3 位の感染死者数(2021 年 12 月時点で 61 万 6 千人)を記録したブラジルにて各地で医療崩壊が生じ、経営難により買収される日系病院も発生する中、今回の森口教授の受賞をきっかけに、日系病院の中核であるサンタクルス日本病院の設立に携わり、その後親子 3 代に渡り長年日系社会や無医村地帯の巡回診療に従事してきた細江氏、森口親子の功績に改めて光を当てることで、日本社会、そしてブラジル社会にも広くその活躍が知られ、医療サービスにアクセスできない住民を対象とした地道な活動の意義が高く社会から評価されるとともに、記憶にとどめることに微力ながら貢献したいと考えています。

## 2. 表彰式等

### ■ 表彰式について

12 月 9 日(木)

場所: JICA 本部(東京都千代田区)

※森口教授はオンラインにて参加予定。

表彰式に関するお問い合わせ: [mptme@jica.go.jp](mailto:mptme@jica.go.jp) (JICA 広報部報道課)

### ■ 受賞者の肩書:

・氏名: 森口エミリオ秀幸

・現在の役職等:

- ーリオ・グランデ・ド・スール連邦大学医学部教授、同大学院  
医学部心臓外科
- ー千葉大学客員教授、横浜市立大学兼任教授(日本)
- ー(元)WHO 老年医学慢性疾患予防センター長
- ー老年医学分野ブラジル代表(1997 年~2006 年)
- ー医療法人社団エミリオ森口芝浦スリーワンクリニック顧問(日本)



## 3. 参照

「第 17 回 JICA 理事長賞 受賞者・団体が決定」(JICA HP)

[https://www.jica.go.jp/press/2021/20211206\\_21.html](https://www.jica.go.jp/press/2021/20211206_21.html)

## 4. 本件お問い合わせ先

担当: 佐久田(ブラジル事務所、サンパウロ在)

電話: (11)3251-2655(サンパウロ)

メール: [Sakuda.Tomochika@jica.go.jp](mailto:Sakuda.Tomochika@jica.go.jp)

以上